

第2回 学校運営協議会

令和7年6月26日（木）14：15～16：25

出席者：中川委員長、桜井委員、青木委員、坪山推進員、海老原推進員、
川島校長、鯉淵教頭、小野瀬事務長、中田地域連携教員、
石橋小教職員（分科会および全体会）、平石（記録）

- 1 校長あいさつ・日程の説明 14：15
- 2 授業参観（各教室） 14：25～15：10
 - ・ 1～6年生各教室の授業の様子を参観した。
- 3 分科会「教員の働き方について」 15：35～16：00
 - ・ 4つの分科会に分かれ、意見交換した。
- 4 全体会 16：00～16：25

教職員の声として、下記のような意見が出た。

 - ① 仕事の量の多さ、困り感について
 - ・ 仕事量に対して、時間が不足している。仕事の増加に対して、減らせるものがない。
 - ・ 学校外の児童トラブルにも対応しなければならない。また、児童の登下校は、家庭や地域が負うべきものである。（本来は学校の業務外であるが、学校に依存されてしまう。）
 - ・ 教科担任制、複数担任制など導入し、業務をスリム化してほしい。
 - ② 意欲ややりがいについて
 - ・ 働き方改革は時間短縮だけではない。
 - ・ 教職員個々の気持ちよく働けるスタイルは多様性があるってよいのではないか。
 - ・ それぞれ教育的愛情をもって児童と接し教育活動を行っている。
 - ・ 教職員の声を受けて、本校学区内の育成会がほとんどなくなってしまい、登下校班編製の担い手、受け皿が地域からなくなってしまった現状を確認した。
 - ・ 学校が地域の中核として期待される中、学校の過度な負担にならずに、学校運営協議会をはじめ、保護者を含む地域住民で子どもたちを見守り育てていくことの大切について意見交換した。